

## 羽村市内への米兵パラシュート及び誘導傘落下事故について、市長と話し合い

1月15日、昨年11月18日に米兵がパラシュート降下訓練中、羽村市川崎の民家に落下する事故が起き、2日後の11月20日には、誘導傘が神明台4丁目の歩道で見つかった件で、羽村平和委員会の5人は、羽村市橋本市長と話会う機会を持ちました。市側から企画部長、企画政策課長が同席しました。

大変な事故でした。パラシュートが落ちてくる様子や、米兵が民家の前で座り込んでいる姿、パラシュートが屋根から垂れ下がっている様子などが報道されました。羽村市民は、一歩間違えれば大事故になったかもしれない、いつわが身に起こるか分からないと思ったことでしょう。落下された家の皆様は、さぞ驚かれたでしょう。お見舞いを申し上げます。

このパラシュート等落下事故について市長は米軍横田基地や北関東防衛局などに抗議をしました。しかし、この事故について私たち市民には詳しい情報が知らされていません。

羽村市には2018年4月10日にも、羽村第3中学校校庭にパラシュートの誘導傘が落下したことがありましたが、その時は北関東防衛局から、誘導傘が落下するまでの状況も詳しく北関東防衛局から情報があつたし、落下した誘導傘は約3mあり、その写真は、テレビや新聞等でも報道されていました。

今回は、米兵とパラシュート(メインパラシュートと予備パラシュート)が民家の屋根に落下した大変な事故であったにもかかわらず、落下に至った状況も詳細に説明されず、情報開示が不十分であると思います。羽村市も誘導傘の落下地点も道路に落下したのに、神明台4丁目と広い範囲しか知らせていません。誘導傘の写真もなく、形状も明らかにされていません。羽村市は知りえた情報は開示することで、米軍や防衛省に正確な情報開示を強く求め、事故の原因究明や再発防止につながると思うのです。

これまでパラシュート等が落下した立川市や福生市の場所については明らかになっていますが、昨年11月18日に事故があった羽村市だけ、落下地点が不明です。羽村市は、誘導傘の落下地点は住宅のそばなので明らかにしないということですが、これまでの落下地点は皆、住宅地です。

その他、パラシュート降下訓練は、事前に日時、部隊名、人数等を詳細に情報提供することや、沖縄県の嘉手納基地のようにパラシュート降下訓練の実施した日付や回数など詳細な記録を取ることを北関東防衛局に働きかけることを要請しました。

最後に、パラシュート降下訓練は、主に特殊部隊が行っていて、今年1月、ベネズエラ大統領夫妻を拉致し、かつてはウサマビンラディンを殺害したのも特殊部隊です。パラシュート降下訓練は住民にとって危険であるだけでなく、その役割も危険です。パラシュート降下訓練の中止を各方面に働きかけてください。と要請しました。

橋本市長は、羽村市での米兵とパラシュート等落下事故後、米軍に訓練中止を求めましたが安全が確認されたとして2日後には訓練を再開し、福生で再び事故を起こしたことに大変怒っておられました。

私たちも同じ思いです。平和と市民の安心・安全を守るため、ともに頑張っていきたいと思えます。



橋本市長（左奥）と話し合う羽村平和委員会のメンバー